
錬金術師な王とバンパイア

myaummyau

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

錬金術師な王とバンパイア

【Nコード】

N8292R

【作者名】

myaumyau

【あらすじ】

最初に言っておく、これは処女作だ。あまり期待しないでくれ。ロザリオとバンパイアの二次創作でこういう物が無かったから書くうと思った。反省はしていない。主人公は神様に能力をもらって転生する物語。

プロローグ：初めての転生

side:?????

「はあ、バイトも終わったし、家に帰るか」

俺の名前は 不知火 明 最近、世の中がつまらなくて飽き飽きしているところだ。今日もいいことは無く家に帰ろうとしているところ、急に目の前が大きな壁のようなもので遮られた。

ブッブー!!!

いつの間にか俺はトラックにより宙に跳ね飛ばされていたみたいだ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

..... 此処は？

気が付いたら変な白い空間にいた。辺りを見渡すと白い髭の爺さんがいて  
こちらに近付いてきて

(わしは神じゃ)

と言ってきた。しかもそれが頭の中で木霊する。どうしたものかと思つてポケットに手をつつ込んでみると携帯があつた。やはり、この場合は黄色い救急車を呼ぶボタンをプッシュだろうと思ひ、押そうとしたら止められた。

(わしを変な人を見るような眼で見るとは神じゃない。わしは神じゃと言つておるだろうが。それよりおぬし、転生してみないか？なくにもちろん特典も付いてくるぞ)

…どうすればいいんだろう、俺にはライフカードといった便利なものは無いし、そもそも有つたとしても使いものに成らんだろうけど、まあ、神様というのは信じてもいいんじゃないかと思うわ、否定材料も無いけどこの空間の説明がつかないし、なんかよくわからん威圧感を感じるからな。

「で、その前に此処はどこですか？神様、そしてどういふことですか？」

(ふむ、少しばかり混乱しているようだな。まあ無理もない、此処はわしの空間じゃ。それとおぬしはトラックにひかれて轢死、で魂になったのを呼んだんじゃ。なんでかというと、ちょうどわしが暇をしていたんじゃ、そのために暇つぶしとしておぬしに力を与えて

どっかの世界に逝かせて楽しもったわけじゃ

「ああ、巷で言うオリ主をして来いということか

(そういうことじゃ、理解が速くて助かるのお)

「だったら、世界はロザリオとバンパイアの世界で能力は錬金術(真理をみたバージョン)、不老、種族はオリジナルで妖怪の王という感じにしてくれ。あとついでに容姿はセフィロスでお願いします

(ふむ、大丈夫じゃ。代価はおぬしの前世の存在ということにするかの。さらにサービスで+もあるから期待しとくんじゃぞ)

「ああ、頼む」

……あれ、こづいづのって普通は下に穴ができるんじゃないのっけ？

そう思っていると、神様が近付いて来て

(ラァアアリイイイアットオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!)

北斗な人たちも真っ青な気迫でラリアットをかましてきた。

（我の名はゼウスじゃ次に会うまで覚えておけ）

…薄れていく意識の中、はっきりと声が聞こえた

## 第一話：始まりの妖怪

……人類が誕生した、それと共に恐怖から妖怪が生まれた

それは最初の妖怪である

side:aki

だんだんと意識が戻ってきた……まるで、今までずっと寝ていたような感覚だ。

体の中でなにか違和感がある、前までは感じてなかったものが体中を駆け巡り、うごめいている。

なんだ？と思いつながら目を覚ますとそこは荒野だった。

「此処はどこだ」

最初の発声は前の声と比べ、イケメンボイスだった。

「まずは状況確認だ。さっきまで神様に話をつけてリアットをくらって、気を失い、  
どうしたものかと思ったが、場所がチェンジしているから……  
む、どうやらここが

ロザバンの世界か」

ロザ

リオとバンパイアの略

そうすると、自分は今妖怪ということになっているわけだ。しかも  
起源の、

では体の中にある違和感の正体は妖力になるのか？まあいい、自覚  
できるだけましだろう。

最後に、能力確認だが俺は錬金術を使えるようになってるけど……

ハガレンのエドたちのように体を錬成陣とするよう両手を合わせて  
地面に手を向けて

槍を創ろうとした。



瞬間、真下にどこかで見たことあるような錬成陣と黒いによるよろした手が俺をひっぱった。

びっくりして目をつぶり、しばらくして光が差し込んだ気がした。目をあけると

全身が白いシルエットみたいなヤツがいて、そいつが口を開き、

『やあ、全であります（ry 長いので省きます …… 通行料は既に払っているみたいだ』

何の会話はしなかった。その後、頭の中で莫大な量の知識が入っていく、

それと同時に半端ない程の痛みが頭で起こり俺は頭を抱えながら連続でバク転をしていた。

意味がわからん の前に、何故できたし

いつの間にか荒野に戻っていた。真理を見たからできると思いやってみたら、できた。

そういや、某無能な大佐は「炎の錬金術師」って呼ばれてたりしたな。

あれってたしか研究のテーマが炎だからそれにちなんでそう呼んでたり、

エドも機械義手オートメイルをつけているから見た目にちなんで「鋼の錬金術師」

と呼ばれていたな。

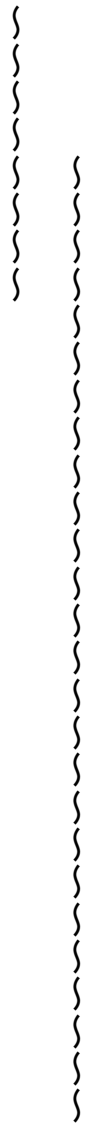
じゃあ、俺も研究テーマを決めてみようか、メインは時間と空間、サブは影

……おもいつきり中二病だな、まあそうしないとこの世界では生きていけないだろう。

武術に次元刀がある世界では、

次に、自分の種族だがどんな特徴があるんだ？

ヒラリッ 上から紙が落ちてきた。手紙のようだ



おぬしへ

おぬしは一人種族じゃ妖怪というカテゴリーで見れば別じゃが

肝心な種族は前に話したとおり、おぬしが言った妖怪の王じゃが、

我が思った能力を追加しておく。具体的に言うと

まずは、王というからには

- ・妖怪を統べる能力
- ・相手にすごい威圧感を感じさせたりする能力
- ・カリスマ

があるんじゃが我が思った起源というのをプラスして

・すべての妖怪の能力の操る力（ON/OFF可）

・すべての妖怪の特徴を合わせ持つ

ect…

が、追加されておる。せいぜい死なないう修行で

もして

我を楽しませよ

追伸 読み終えたら燃えるぞい

追伸 2 燃えたら力の使い方が分るじやろう

追伸 3 + のことも忘れるでないぞい

ゼウスより

~~~~~

~~~~~

ポフッ！！！！！

紙が燃えた、しかも勢いよく

しかし、こんなことまでありがとよ、神様、おかげで助かるぜ

さて、この世界で生き残るために一刻でも早く能力に慣れて修行しますか

## 第二話：初日（前書き）

書き忘れたというか一応主人公は人類が誕生した時に生まれました。という事は過去の世界ですので気長に待ってください。そして、後から編集とか面倒なんで能力に+ というのをつけています。

## 第二話・初日

「さて、修行だがやっぱ錬金術からだよな」

理由は、この時代の人というのは猿人というか原人というかまあ、とにかく

く、そんなのが生きている時代で前のような暮らし…現代のような否、未

来のように生きていけなく、もちろん食料を自分で調達しなければならぬ

いからだ。まあ研究は後々やるつもりだが、まずは火を熾さないといけな

い。

バチイ！！！！

両手を叩いて手を地面に向け錬成する

？あれ、なんか今めっちゃ頭が回転したぞ。まるで急に頭が良くなつたみ

たいな感じだ。まさか、アンサー・トーカーにでもなったか？いや、それ

は無いな

そう思ったったとき、また手紙が上から降ってきた。なににな

~~~~~

おぬしへ

これを見ているということは我が言った+ の能力に

ついて気がついたか、その能力があると色々と楽だろうと

思い、つけてみたのじゃ。

ちなみに+ といっても能力は複数あるからの、

早く見つかるといいの。

ゼウスより

~~~~~

おいおい、マジかよ神様尊敬しちゃうぜ。これで修行とかその他諸々楽になるな。

さて、最初は家を創りますかでも、その前に此処は荒野だから生き物は全

然見かけない。森が在るところの方が資源とかあって、しかも隠れやすい

からまずは森を目指そう。主に俺が死なないために

所変わって今は森にいる。よかったアンサー・トーカーで、じゃな  
かった

ら森がどこにあるのかわらずに餓死していたぜ。案外近いところに  
森が在  
って助かった。

「まずは寢床の確保だな」

そう言っただけ俺は作業に取り掛かった。

バシィ！！！バシィ！！！！……辺りに錬成に伴う光が飛び、少し  
だけ明  
るくなる。

何度か繰り返し、外から見て隠れ屋敷のような周りと同化したよう  
な外見

の家が完成した。だが、家の中は富豪とかが持っていそうな山奥の別荘の

ような作りになっている。

「お次は食料だが、ふむ、あそこの方が」

アンサー・トーカーを発動して食べ物を探しに行く。川の方に着いたら釣

り竿を錬成して適当に川魚を数匹捕まえた。そのあとは、錬金術で火を熾

してこの世界で最初の飯を食った。

初日なんでこんな程度しかやることは無かったが初めての世界で俺の最初の

の一日が終わっていった。

## 第二話：初日（後書き）

作者は今沖縄に住んでいてまあ沖縄育ちなんですけど、3月、4月近  
いですが晴れの日に外に出て友人と遊んでいたら即日焼けして、顔  
が痛かったです。太陽舐めていました。マジぱねえ  
更新遅いですが気長に待っていてください。頑張りますので

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8292r/>

---

錬金術師な王とバンパイア

2011年9月6日17時31分発行